

としょかんだより第81号

ご入学おめでとうございます

2014年4月開館予定表						
日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

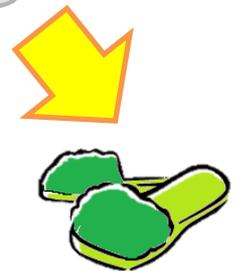
2014年5月開館予定表						
日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

	9:00-21:30		13:00-21:30
	9:00-17:00		休館日

『それゆけ！としょかんだより』は毎月発行される図書館の広報誌です。図書館からのお知らせや開催されるイベント等のお知らせをしています。

新入生の皆さんも、初めて図書館を利用する皆さんも高野山大学図書館をよろしく願います。

図書館案内図



* 図書館は土足禁止となっております。

入り口に靴箱がありますので、スリッパに履き替えて図書館をご利用ください



学生用玄関入口

研究棟側入口



発行所

〒648-0280

和歌山県伊都郡

高野町高野山385

高野山大学図書館

閲覧室

TEL:0736-56-3835

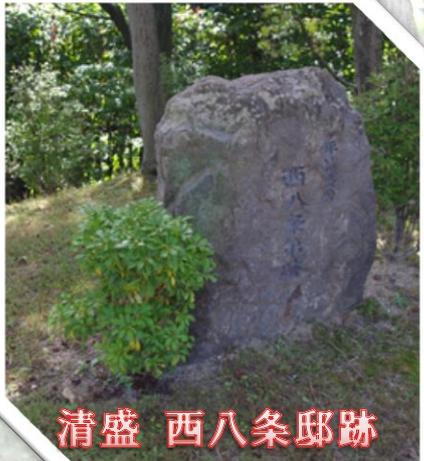
FAX:0736-56-5590

E-mail

service-lib@koyasan-u.ac.jp

藤原成頼の高野入山

高野山大学教授 図書館長 下西 忠



清盛 西八条邸跡

慈円には歴史哲学書ともいえる作品に『愚管抄』があります。それによりますと、藤原成頼の出家についてさまざまな意見があるけれども無益であると記しています。出家の動機について、平家物語の注釈書には、参議として平宗盛や時忠に超えられたことも、その理由の一つであろう、と述べています。出世争いにかかわる人々のさまざまな人間の複雑な心理はいつの世にもあります。

ところで高野山はそもそも「避難場所」とい性格を帯びていました。何かからの逃避です。いずれにしても藤原成頼は高野に避難して、一途に後世菩提を祈りました。『高野春秋編年輯録』には、入道相国(清盛のこと)の凶悪を避けてであったと記している。入道体阿弥と呼んだらしい。また高野宰相入道と号したらしい。庵に一首の和歌を残しています。

高野山奥まで人のたざねずば閑かに峰の月を見ましや

可能ならば都から遠く離れたここ高野でのどかに月をみているものだ、という思いが詠まれています。成頼の高野入りは、治承三年(一一七九)冬十一月、四十四歳でした。彼の入山の時期について寿永三年(一一八四)という文献もあるようですが、成頼にたいするそれぞれの筆者の感懐の程度の差によるものと考えておけばよいと思います。

『平家物語』の作者は、治承三年十一月のクーデター以後の、惨憺たる世相を書くについて、成頼の出家遁世をあげ、特に成頼の時勢への痛烈な批判のことばが、『平家物語』巻三「城南離宮」で記しています。高野にて都の状況を聞いた成頼は、ああ、はやく決心し遁世してよかった。こうしてここで聞くのも同じことであるが、都にいて事件の渦中であつてまのあたり見たとしたり、どんなに情けなく思うことであろう、保元・平治の乱をこそ、あさましいと思ったが、これからは天下にどんな事件が起こってくるだろうか、雲を分けて更に高く登り、山を越えて更に奥深く入りたいたいものだ、と成頼は述べた。

どこまでも清盛から身をかくすという成頼の強い意志がある。そこには新興勢力平氏への痛烈な批判精神があふれている。古い価値観をもった旧勢力の精一杯の抵抗かもしれないね。